

# 仙台特区

vol.3

## Social Innovation SENDA



### 特集 > 公共空間の活用で 表情豊かな魅力あるまち仙台へ

#### 市内中心部商店街を賑やかに彩りました! 「WE LOVE 大道芸 まちくるカーニバル」開催

平成28年10月1日・2日の両日、市内中心部の商店街の路上や公園などを会場として大道芸のパフォーマンスを行う「まちくるカーニバル」が開催されました。

イベントは、仙台市中心部の8商店街振興組合で構成される「仙台市中心部商店街活性化パートナーシップ準備協議会」が主体となり、国家戦略特区の道路法の特例を活用して実施したものです。協議会では「まちくるパフォーマーズ仙台」事務局を立ち上げ、パフォーマーを募集。全国から多数の応募があり、書類・映像審査と市街地での公開実技審査を通過したパフォーマーにライセンスを発行しました。パフォーマーには安全誘導研修も実施。演技の質だけでなく、イベント開催時

の安全性についても配慮を行っています。

まちくるカーニバルの当日は、24組のパフォーマーが演技を披露。アーケード内で大道芸イベントが開催されるのは、全国的にも珍しいものです。大道芸と言っても演技は様々!よく知られているボールやスティックを操るジャグリングの他にも、一輪車やバランスボードなど、多様なパフォーマンスが披露されました。中にはジャグリングとマジックを組み合わせた複合的なパフォーマンスや、最後まで何ができるか分からないバルーンアートやスプレーアートなど、観客をワクワクさせる演出も盛りたくさん!観客との距離が近く、誰でも気軽に見ることができる大道芸は、老若男女、国籍を問わず楽しめることも

魅力の一つ。観客の方を巻き込んでのパフォーマンスも見られ、街中には、パフォーマーの演技に対する大きな歓声と拍手が響き渡りました。

中心部商店街では、今後も大道芸を含めたイベントの実施や、オープンカフェの設置など、まちの賑わい創出につながる取り組みを実施していきます。また、これから起業を考えている人や事業を始めたばかりの人向けに、テストマーケティングを行う場を提供し、起業家育成や販路拡大の支援も併せて行っていきます。

日々賑やかさと魅力を増していく中心部商店街。今まで見たことのない新しいものに出会えるチャンスが広がっています。週末は足を運んでみてはいかがでしょうか。



泉中央駅前広場(イベントを行うエリア)の様子

## 泉中央駅前がリニューアル！一日楽しめる泉中央、いつ来ても楽しい泉中央へ

地下鉄泉中央駅前では、平成28年10月に「仙台循環器病センター」が移転開業し、11月には、新商業施設「セルパテラス」がオープンしました。

これらの施設のオープンに合わせ、泉中央の魅力さをさらに高めるため、地元団体と市が連携し、ペDESTリアンデッキ下をリニューアル。多目的に利用可能な広場を設けました。併せて、国家戦略特区の認定を受け、道路空間である広場で、道路法の特例を活用できるようになりました。この広場空間を賑わいや交流の拠点として利用してもらうことで、泉中央駅から周辺の商業施設へ賑わいがつながり、多様な人々との交流が生み出されること



店舗が出店するエリアの様子

が期待されます。

広場は、キッチンカーによる軽飲食店や物販店が出店するエリアと、イベントが行われるエリアの2つがあり、地元が主導する取り組みが始まっています。

取り組みを担うのは「泉中央駅前地区活性化協議会」。泉中央駅周辺の地権者や事業者によって構成されており、これまで取り組んできた駅周辺の清掃等を行う美化活動や、フランスの市場をイメージした、地域の名店が軒を連ねる「泉マルシェ」を他団体と共催してきた経験を活かして、取り組みを進めています。

店舗が出店するエリアは、落ち着いたある色調や照明に加え、シンボルツリーであるもみの木と、季節感を意識した多くの植栽が配置され、来場者がリビングの延長のようにくつろげる空間であり、ユニークな商品を扱う店舗なども、癒しを演出するようデザインを意識しています。オリジナリティのあるお店が上質な空間に集まることで、街のシンボルとなることを目指します。

イベントを行うエリアでは、地域住民、地元



出店しているキッチンカーの様子

小中学校による音楽やダンス、アート作品の発表や、商業施設の店舗によるお菓子教室、病院の健康セミナー、行政による啓発イベントなど、地域住民・企業・行政のコミュニケーションを促進する多様なイベントが検討されています。その他、盆踊りやクリスマスパーティーなど、季節を感じさせるイベントも企画されており、一年中いつでも賑わいが持続するコミュニティスペースを目指します。

新しいスペースの完成とともに、一層魅力を増した泉中央！一日楽しめて、通勤通学の途中、買い物の合間など、いつ来てもたくさんの楽しみを味わうことができそうです。

### 道路法の特例とは？

道路は、一般の自由な通行を本来の目的としているため、道路の敷地外に余地がなく、やむを得ない場合のみ、ベンチやオープンカフェなどを設置する占用許可を受けることができます(余地要件)。国家戦略特区の特例は、この余地要件を緩和し、ベンチやオープンカフェの設置がしやすくなるというもの。この特例による、道路を活用した地域の賑わい創出の取り組みが期待されます。



# 賑わい創出の担い手にお話を伺いました!

## 個性×個性の相乗効果で、魅力的な中心部商店街に

Q 協議会発足の経緯を教えてください。

A 平成22年10月に、中心部商店街の継続的な活性化に向けて「仙台市中心部商店街将来ビジョン」を策定しました。この将来ビジョンを実現していくために、中心部商店街が共同で活動してはどうかということになり、中心部の商店街が集まって「中心部商店街活性化戦略研究会」を組織しました。ここでの様々な勉強を進めている最中に東日本大震災があり、改めて商店街の役割を考える契機となりました。それからは、中心部商店街にできた施設「仙台南びっく」や「東北ろっけんパーク」を拠点として、他地域商店街の成功事例の研究や共通駐車券事業の実証実験の取り組みなどを行い、平成27年1月に、研究会を発展的に解消し、現在の組織を立ち上げた経緯があります。

Q 活動する上でのご苦労は?

A 商店街ごとに歴史がありますので、意見を集約するのはなかなか難しいですね。しかし、それは裏を返せば、それぞれに個性があるということですから、それらを上手く表現することが、中心部商店街の魅力向上につながると思います。

Q 特区の認定をどう感じていますか。

A 先日も大道芸のイベントを行いました。特区の認定を受けたことで、実現可能なアイデアは格段に増えたと思います。ただ、要件が緩和されたから何でもやれば良いというのではなく、お客さまにとって魅力的であるか、メリットがあるかといったことを、中心部商店街として行うイベントや事業の判断基準にしていきたいと思っています。

Q 今後の活動について教えてください。

A 平成29年4月、この組織は仙台市中



仙台市中心部商店街活性化  
パートナーシップ準備協議会  
会長 山崎 浩之さん

心部商店街活性化協議会となります。今後も一層、協議会として、商店街、大型店、各団体や行政などとチームワークを育んでいきたいと思っています。協議会のメンバーはパートナーであり、力を合わせて協議会としての実績をつくり、できることをさらに広げていきたいと思っています。



泉中央駅前地区活性化協議会  
事務局 石橋 裕樹さん

Q 活動のきっかけを教えてください。

A 地下鉄泉中央駅ができたことで、駅周辺に様々な商業施設が開業し、賑わいが創出されました。しかし、郊外に大型店が進出したり、長町などの新興エリアの開発が進み、地域間の競争が激しくなる中、泉中央駅の相対的な優位性が徐々に薄れてき

## 泉中央の駅前を、くつろぎの「サードプレイス」に

たのです。この状況を何とかしなければと立ち上がったことが、当協議会誕生につながりました。

Q 活動して良かったと思うことは?

A 「泉マルシェ」は、当初は今の規模のイベントではありませんでしたが、それでも協議会のメンバーやその家族、まちの人たちと心を合わせて集客の努力を続けました。その姿勢に共感してくださる方が増えたのでしょうか、徐々に人が集まるようになり、今は4万人規模のイベントに成長しました。また、今回、駅前の広場にお店を出したり、イベントを行ったりするようになったことで、高齢者の方から「外出するきっかけになるからすごくいいね」と声をかけられたんです。そんな時は、やってきて良かったなと思います。

Q 活動を通して「大変だな」と思ったことは?

A 泉中央駅前の「道路空間」の活用を考え

るのが大変でした。泉中央駅は大変通行量が多い駅ですが、駅前を人が集い、交流するような使い方をするには、様々なハードルがありました。しかし、特区の認定を受けたことで、道路上に交流できる場所ができ、駅周辺の商業施設をつなぐ役割をもたせることができたので、まちに活気と回遊性が生まれることを期待しています。

Q 今後の目標を教えてください。

A ファーストプレイスが自宅、セカンドプレイスが学校や勤務先だとして、この駅前広場をサードプレイスと位置づけてもらおうというのが、私たちの目指すところです。泉中央駅を単なる通過点ではなく、来た人が家庭のリビングのようにくつろぐことができ、一方で出店を考えている人がチャレンジできたり、ステージ発表を経験できるチャンスがある。そんな空間にしたいと思っています。



3rd LIVING at JOZENJI PARK (定禅寺通)の様子



Brooklyn Dayout, TOHOKU COFFEE STAND FES 2016の様子

## 魅力ある懐の深い都市を目指して「リノベーションまちづくり」が進んでいます

仙台市では、公共空間や民間の遊休不動産の利活用を推進し、街中に新しいコンテンツや人材を育て、より魅力ある懐の深い都市空間を目指す「せんだいリノベーションまちづくり」に取り組んでいます。

特徴としては、民間事業者が行政の補助金などに頼らず、自立したまちづくりを行い、行政は弾力的な制度運用などのサポートを行う「民間主導の公民連携によるまちづくり」という点です。特に、せんだいリノベーションまちづくりでは、公共空間の利活用の取り組みが盛んに行われています。

平成28年5月には「SENDAI COFFEE



お米をかまどに入れる様子

STAND」で知られる本郷紘一さんが中心となり、青葉区国分町の肴町公園で「Brooklyn Dayout」を開催。コーヒーや

焼き菓子、フリーマーケットを楽しめるだけでなく、子どもと一緒に遊具のペンキを塗り替えるワークショップや花壇の花植え、子ども達のための小さな図書館・Little Free Libraryの設置などを全て民間資金で運営。公共の一翼を担う活躍をしました。

さらに、10月には、定禅寺通で「TOHOKU COFFEE STAND FES 2016」を開催。東北のコーヒーロースター18店舗、キッチンカー、移動型の書店などが出店し、色とりどりのコンテンツが定禅寺通を彩り、2日間で23,000人ものお客様がありました。

また、「株式会社伊達の家守舎」も「リビングのようにつづろげる定禅寺通」をコンセプトに、7月と11月に「3rd LIVING at JOZENJI PARK」を開催しました。地元の旬な食材を楽しめるお店などが出店し、宮城の美味しいお米をかまどで炊いて食べるといった企画が行われました。当日は、お掃除ワークショップも開催。利活用推進と

同時に、景観美化活動も行われました。

併せて、「せんだいヤタイ」の活躍も、せんだいリノベーションまちづくりの大きな推進力となっています。せんだいヤタイは、まちづくり活動の一環として、ヤタイを制作し



せんだいヤタイを制作している様子

ています。SENDAI COFFEE STANDや伊達の家守舎主催のイベントの際に、制作したヤタイをレンタルするなど、公共空間の利活用に向けた活動を支援しています。

これらの取り組みは、まだ始まったばかり。仙台市では、せんだいリノベーションまちづくりの取り組みを通じて、公共空間利活用の担い手を育成するとともに、国家戦略特区の規制改革も活用しながら、より魅力ある都市空間の形成を目指していきます。

### お問い合わせ

#### 仙台市まちづくり政策局政策企画部プロジェクト推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号  
 〈電話〉022-214-8561 〈FAX〉022-214-8037 〈E-mail〉sendai-tokku@city.sendai.jp

国家戦略特区の概要や仙台市の取り組みについては、仙台特区ウェブサイトをご覧ください。  
 仙台特区ウェブサイト <http://sendai-tokku.jp/>

